随筆

腰椎椎間板ヘルニア入院体験記

小野田市立病院 内科
白澤　宏幸

「人生何が起こるかわからん」、阪神大震災で両親の家が全壊してから、常々そうは思ってきました。しかし振り返ってみるといつも甘い！仕掛けられた地雷は容易に踏みつけてしまうようです。

７月８日PTCD（経皮経肝胆道ドレナージ）をしてから、腰痛が生じました。結構強めだなあなどと思っていましたが、生来物事を軽めに判断する性質で、それでもあまりしない湿布などしながら通常勤務（激務？）を続けていました。７月14日手術室での検査の折、痛みのため立っているのもつらくなり、その夜は病院公舎に泊まりましたが、外出不能状態。腰から臀部に痛みは広がり、左下肢に及んだときには「これは凄いやつが来た」と覚悟しました。それにしてもボルタレンサポ50mgを使用しても全く痛みは軽減せず、ついにその夜は一睡もできませんでした。激しい疼痛は言葉にできない不安感をもたらすことを身をもって知りました。

翌15日整形外科深堀先生に診察していただき、MRIにて腰椎椎間板ヘルニアと診断。久しぶりに見る巨大ヘルニアとのことで誇らしげな？、恐ろしいような妙な気分となりました。即入院！10数年前、子どもからもらったMumps（当然男性のシンボルが腫れ上がるという合併症つき）以来の入院でした。

生まれて初めてストレッチャーに乗せてもらい、麻酔科外来へ。胸膝位がとれないため、仙骨ブロックをしていただき、少し痛みが落ち着きました。夕方、３歳の息子が痛む左下肢をポンと叩いたときには大したことがないのにヒヤッとしました。病院の職員がたくさん激励やらお見舞いに来てくれ、少し落ち着いた頭で感謝することができました。

比較的鈍感な私でも入院初日は寝付けませんでした。翌日は神経根ブロック！強烈です。激痛で思わず身がよじれました。深堀先生曰く、「恐れたらいかんから、すごく痛むことを黙っちょったんよ…」ありがとうございます。もう二度とヘルニアにはなりません。

しかしおかげで疼痛はかなり改善。以後は快眠快食でした。主治医の説明はもちろん、各種体験談、人から聞いた話しなどゴチャゴチャと情報を詰め込み、入院３日めに手術することを決定しました。退院日と社会復帰が計算できるということが主な理由です。

除痛が不完全で土日に痛むといけないからということで18日に硬膜外ブロックを受けました。しかしどうやら効きすぎたらしく、息苦しい！麻酔医山本先生が「こんなに効く人は珍しい。でも大丈夫ですよ」と言ってくれたものの、下肢の感覚が戻るまでは不安でし